



號併合◎量量第・日六廿月七 輯編局報情

眞實  
週報

札立の時

國內は「五権」  
民衆の担はる「神代」





# サイパン島戦闘経過

## 在留邦人 將兵と運命を共にす

海軍少将 辻村武



海軍少将 辻村武



海軍少将 辻村武



海軍少将 辻村武

サイパン島における戦闘経過は次ぎの如きものである。六月下旬、敵の有力機動部隊がマリアナ群島東方に出現、サイパン島は十一日敵機艦艇百九十機の攻撃を受けたのを皮切りに、十二日延二百機十機の来襲、十四日同島西海岸オレアイ飛行場附近に敵機の猛襲を受けた。上陸地帯附近に現れた敵の兵力は、航空母艦十数隻、戦艦八隻、大砲艦隊七十隻内外を基幹とする強力なものであった。二十五日未明、敵は猛烈

- 大本營發表（昭和十九年七月十八日）
- 一、サイパン島のおが部隊は七月七日早朝より全力を挙げて最後の攻撃を遂行。所在の敵を殲滅し、その一部はタボラチ山附近迄突進し勇戦力闘に多大の損害を蒙り十六日までに全員壯烈なる戦死を遂げたものと認む。同島の陸軍部隊指揮官は陸軍中將藤原義次、海軍部隊指揮官は海軍少将辻村武久にして、同方面の最高指揮官海軍中將南雲忠一、また同島に於て戦死せり。
  - 二、サイパン島の在留邦人は終始軍に協力し、凡そ戦ひ得る者は敢然戦闘に参加し、概ね將兵と運命を共にせるもの如し。

なる砲撃を開始、七時頃その機銃下に三百隻以上の舟艇を送り、一帯に同島西海岸オレアイ附近に向つて上陸を企圖したのである。わが部隊は直ちにこれを迎撃、再度に互りこれを撃退、甚大なる損害を蒙つたが、正午過ぎ敵の一部はススベ岬附近に地帯を占むるに有り、爾後運兵これを擴大していつた。わが部隊はこれに對し無類な敵の砲撃を冒して反撃を續行、夕刻までに肉薄攻撃により敵戦車のみでも十数隻を撃破せしめ、わが航空部隊また敵戦艦二隻、巡洋艦二隻を撃破し、巡洋艦二隻を撃破せしめ

たが、陣上よりの砲撃と相俟つて、兵員を逐つた上陸用舟艇多数を撃沈したのであるが、量を持たぬは連日三上陸を執行し、その兵力は一箇師團に達するに至つた。總て十六日には、おが艦隊より前は前へと進歩を斷つた。同日わが部隊は東方及び北方から奇襲を遂行し、その一部はススベ岬まで突進し、敵を南北に分断して陣地の隘路に閉れたが、十七日敵と共に再び敵の砲撃のために後退するのやむなきに至つたのである。敵機艦隊の襲撃、砲撃による損害、軍需品によつて、わが方の損害は甚大増加し、十九日頃よりカラベン山頂タラコ中央の地に陣地を築するのやむなきに至り、オレアイ飛行場は二十日より敵の使用するところとなり、同日頃アスリート飛行場もまた敵手に落ちるに至つた。一方敵機艦隊の襲撃を避つてわが聯合艦隊の一部は突如行動を起した

これに對し南太平洋方面の軍艦隊は北上し来り、十九、二十日マリアナ西方海面に在り、敵機艦隊部隊が襲撃を受けることとなつたが、その状況については既に大本營において發表せられた通りである。かくて二十三、二十四日頃には、サイパン島水頭部も全く陥落せられた。もともと同島は本島にまはれる岩地帯が少く、かつたため、爾後給水にも困窮するに至つた。しかも一方に砲撃、砲撃を蒙つて居る敵の陣地攻撃と相俟して、日を逐つてますます窮乏となり、全島に亘つてその状況を見しうするに至つた。わが方は敵の本隊に對し、不屈不撓、奮闘を續け来たのであるが、損害も著しく増大し、しか

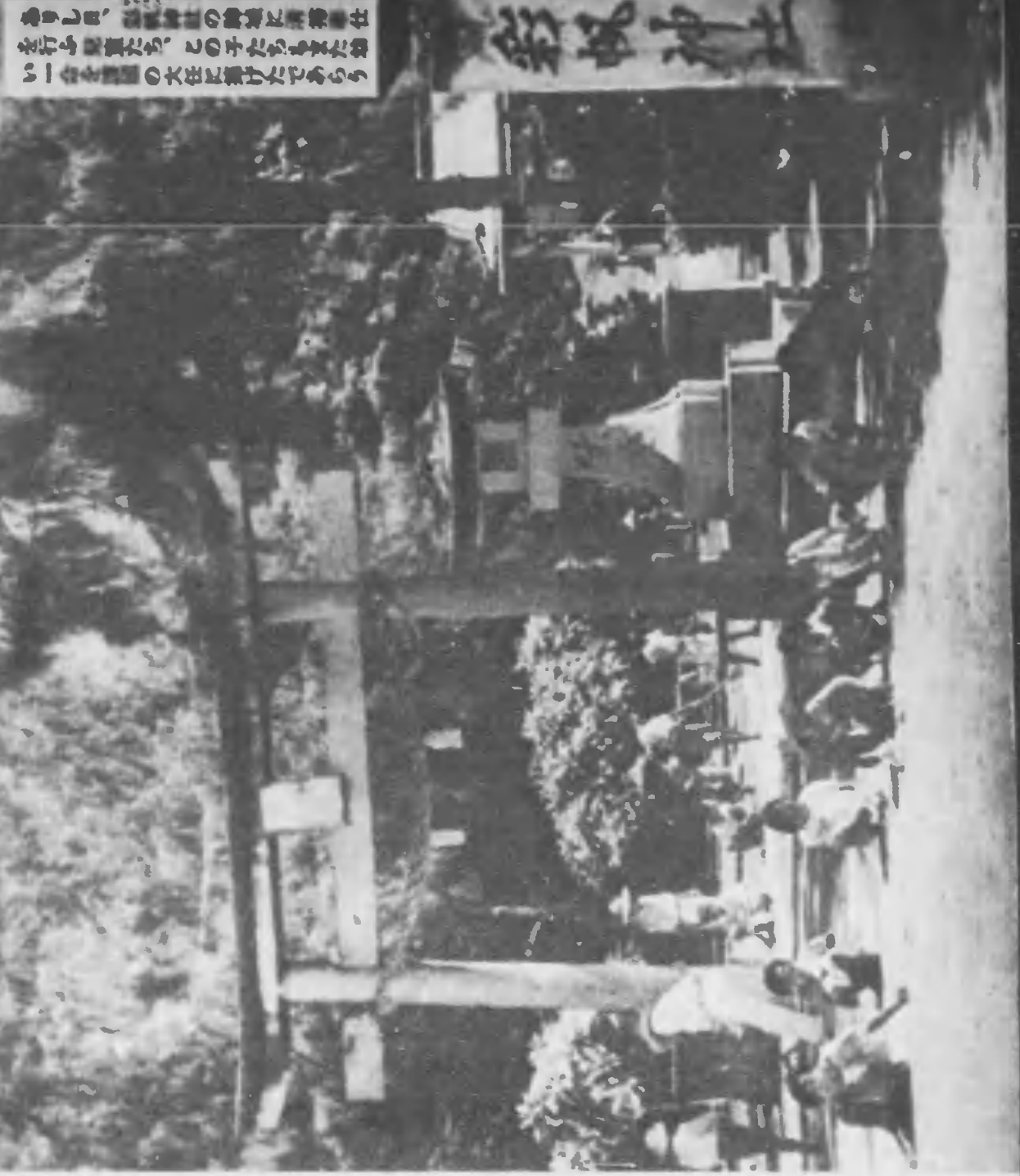
# 緊急なる戦局に臨みて

東條内閣總理大臣談

マリアナ群島においては、六月十一日以来、皇軍將兵の敢闘により、敵に大打撃を加へたるも、サイパン島は、遂に敵の掌中に陥り、憂鬱を構はし奉れることは只々恐懼に堪へない次第である。神州護持の大任の下、雄々しくも、南海の毒と飲つた忠烈なるわが將兵および同胞の英靈に對し、ここに深甚なる哀悼の誠を捧ぐるものである。軍戦の大詔を拜してより、茲に二年有半、その間、皇軍將兵は、隨所に擡進する作戦を展開し、億の同胞、また克く、あらゆる困苦を克服して、それらの疆域において大東亞戦争の完遂に邁進して来たのであるが、敵米英、殊に米國の反攻は漸くその勢を加へ、彼等は遂に、マリアナ群島にまで突進し来たのである。正に、帝國は、曠古の重大局面に立つに至つたのである。しかして、今こそ、敵を撃滅して、勝を決するの絶好の機會

である。この秋に方皇國護持のため、我々の進むべき途は唯一つである。心中一片の妄念なく、眼中一介の死生なく、幾多の戦友ならびに同胞の鮮血によつて得たる職責を活かし、全力を舉げて、速かに敵を撃滅し、勝利を確得するばかりである。かくして始めて大東亞戦争に護國の神とされる幾多の勇士に報いることもできるのである。大東亞戦争の目的は宣戰の大詔に列挙として昭らかである。大東亞戦争は、帝國にとりては、興廢の岐れる戦ひであり、亞細亞解放の聖戦であるが、敵にとりては、大東亞を奴隷化し、世界を征服せんとする戦ひである。日本自衛と野望達成との争ひ、解放と侵略との闘争なのである。しかして今や、決戦の機は来れり。今こそ、大東亞諸民族とともに、歐洲の盟邦と相携へて、敵米英の不退なる反攻を徹底的に撃破するの秋である。眞の戦争はこれからである。億決死の覚悟を新たに、光輝ある三千年來傳統の國魂を凝集して、究極の勝利を確得し、以て、聖靈を安んじ奉らんことを、ここに更めて、固く誓ふ次第である。

も南洋における敵艦隊の侵襲の頻りに對し、わが艦隊は、陣上よりの砲撃と相俟つて、兵員を逐つた上陸用舟艇多数を撃沈したのであるが、量を持たぬは連日三上陸を執行し、その兵力は一箇師團に達するに至つた。總て十六日には、おが艦隊より前は前へと進歩を斷つた。同日わが部隊は東方及び北方から奇襲を遂行し、その一部はススベ岬まで突進し、敵を南北に分断して陣地の隘路に閉れたが、十七日敵と共に再び敵の砲撃のために後退するのやむなきに至つたのである。敵機艦隊の襲撃、砲撃による損害、軍需品によつて、わが方の損害は甚大増加し、十九日頃よりカラベン山頂タラコ中央の地に陣地を築するのやむなきに至り、オレアイ飛行場は二十日より敵の使用するところとなり、同日頃アスリート飛行場もまた敵手に落ちるに至つた。一方敵機艦隊の襲撃を避つてわが聯合艦隊の一部は突如行動を起した。六月十一日頃敵機艦隊マリアナ群島に突進して、わが航空部隊は、殊にススベ岬附近に在り、敵機艦隊の襲撃を受けることとなつたが、その状況については既に大本營において發表せられた通りである。かくて二十三、二十四日頃には、サイパン島水頭部も全く陥落せられた。もともと同島は本島にまはれる岩地帯が少く、かつたため、爾後給水にも困窮するに至つた。しかも一方に砲撃、砲撃を蒙つて居る敵の陣地攻撃と相俟して、日を逐つてますます窮乏となり、全島に亘つてその状況を見しうするに至つた。わが方は敵の本隊に對し、不屈不撓、奮闘を續け来たのであるが、損害も著しく増大し、しか



名義の傷兵、戦死の戦友と共に突入を遂げて自決を見るに在り、重要書類は悉く焼却し、五日夜最後の攻撃命令が下された。この命令に基づき六月夜運搬せられた約五十組の班隊は、敵陣深く侵入し、敵司令部、燃料庫、火薬庫、飛行機庫等をもろめて爆撃敵陣營を積極的遂行せしめ、翌七日未明より全力を挙げて、速く敵機艦隊をカラベナ岬附近に向ひ、壯烈な最後の攻撃を敢行した。かくて皇軍は遂に海軍一艦となり、同方面最高指揮官南雲海軍中將、陸軍部隊指揮官藤原義次中將、海軍部隊指揮官辻村海軍少将は陣頭に立たれ、突撃に突撃を重ね、無数の敵將兵を討ち、爾後砲撃等に據り、旬日におたり激闘を闘ひ、遂に洋上の孤島サイパンを鮮血に染め、聖靈の萬歳と皇國の萬歳を祈念し、十六日までに逐次撤兵していつた。この壯烈な激闘の状況は、わが飛行機の偵察によつても確認されたのである。在留邦人に關しては、大本營より發表された如く、終始軍に協力し、戦ひ得る者は敢然戦闘に参加し、將兵と運命を共にせられたことに対し衷心より感謝の意を表すると共に敬告の誠を捧げる次第である。敵機も、サイパン島の戦闘を太平洋上において経験せる戦闘のうち、最も困難にして激戦なもので、最大の人的損害を出しかつ自負し、七

月十日までの損害、一万五千餘名と發表してゐる。勿論この数字は例により割引されてをり、その實際はさらに大きいものと思はれる。なほ最後の突撃發起にあたり、現地指揮官より左の要旨の報告があつた。陛下の股肱を失ひ、しかも克く任務を完らし得ざりしを謹みて御詫び申上ぐ。大津中隊の奮戦に比すべき皇軍の眞面目を發揮せるもの故、果に過あらず。將兵一同死慮を得たるを悦びあり。功績も仔細に申述ぶるを得ずして、一様に驚れゆく將兵並びにその遺族に對しお詫びの旨かなし。最後に、天皇陛下萬歳を高らかに唱へ、茲に皇國の必勝を確信し、英霊として悠久の大義に生きんとする將兵の聲を傳ふと。われらはこゝに皇國の必勝を確信し英霊として悠久の大義に殉じた將兵の聲に聽へて、敵機がさらば本土に迫らんか、皇軍傳統の精華を發揮し、必ずやこれを撃滅せんことを深く誓ふものである。





# 頑張らう 一億決死の 覚悟で

心耳を澄まして、サイパン島に散華した將兵及び同胞の雄叫びを  
きかうではありませんか

幼い聲を張りあげて「天皇陛下萬歳」を三唱すると、國民學校の  
児童が、兵隊さんに抱かれて散つてゆきます。その最後の瞳に映つ  
たものは、萬古不易のわが國柄を象徴する淨らかな富士の姿であつ  
たでもありませうか。それとも萬葉と咲き匂ふ櫻の花でもありま  
せうか

また、もうすでに冷い赤子に頬ずりしながら、若い母親が叫ぶ  
「天皇陛下萬歳」が、かすかながらはずきり聞えてきます

しかも、これらの英魂は、今なほサイパンの島にしがみついて、  
滅敵の絶叫を繰返してゐるではありません

戦ひは、最後の最後まで頑張る者、踏みつけられようが、叩きつ  
けられようが「貴様らには絶対に負けないぞ」と確信する者、即ち  
相手が負けたといふまでは、決して戦ひをやめないぞといふ強烈な  
意志が、勝利を得るのです

サイパンの島を彩つた同胞の血の滴りには、死し  
てもなほ國體を護持せんとする火の如き信念と誓ひ  
が凝結してゐます。この信念と誓ひに双向ひ得るも  
のが、何處にありませうか

かう考えると、たとへサイパンの島は米兵の軍靴に踏みじられ  
ても、同胞はこの島に明らかに勝利の旗をうち樹てたのであります

燦として輝くこの旗の下、一億悉く死を決して、神州を護持する  
決意をさらに固めようではありませんか

☆

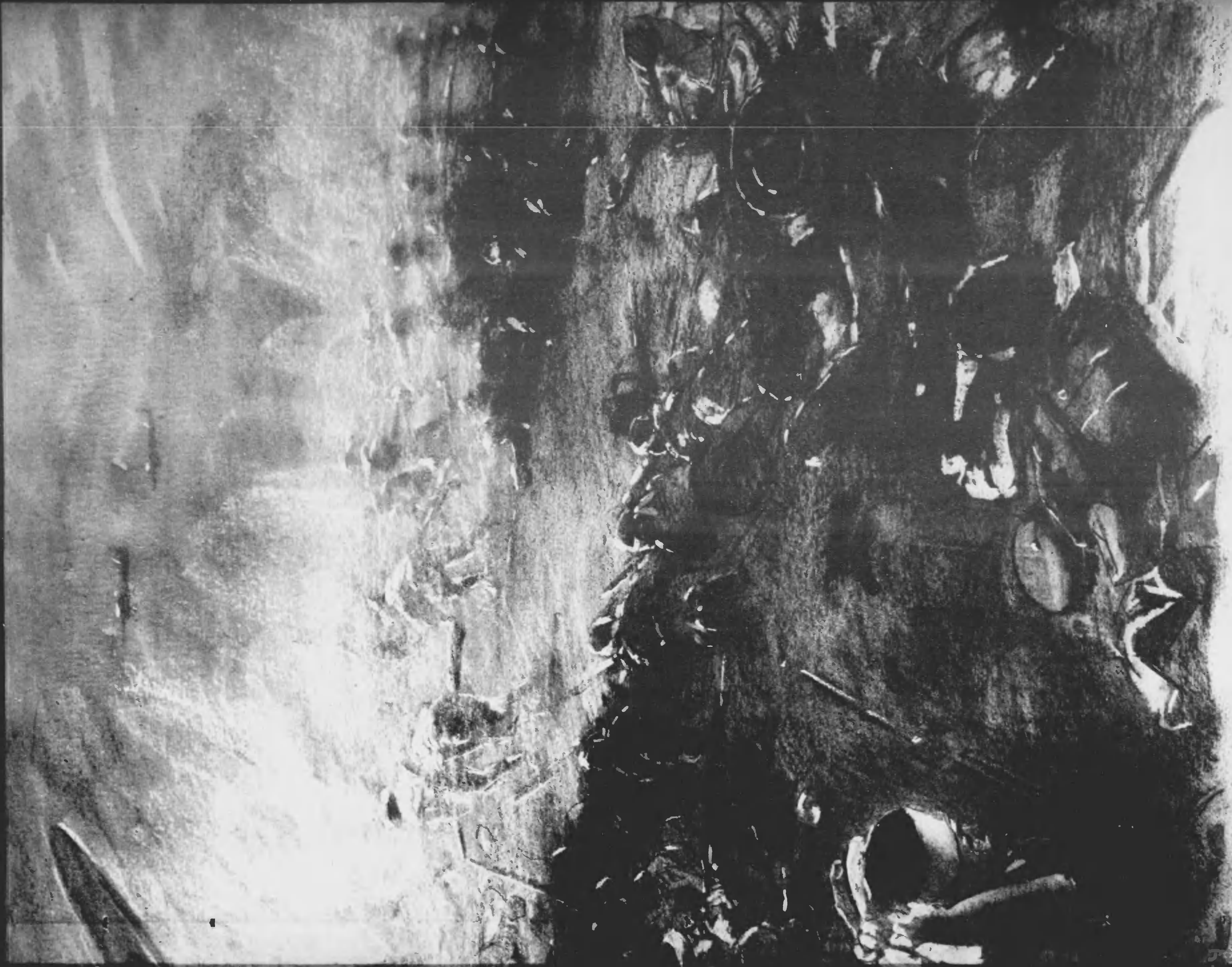
☆

戦況を知るのに、もう地圖を見る必要がなくな  
りました。國內すなはち私どもの身の廻りが、既に戦  
場なのです。鎚を振り、鋏を握る、その手が直接敵  
をたぶすのです

□

私たちの血を捧げます。敵を撃つ生産に全生命を打込みます。小指から滴る紅の血が日本  
女性の決意を語つてゐる——血戦して必勝生産を誓ふ東京電機製作所の機務室職員

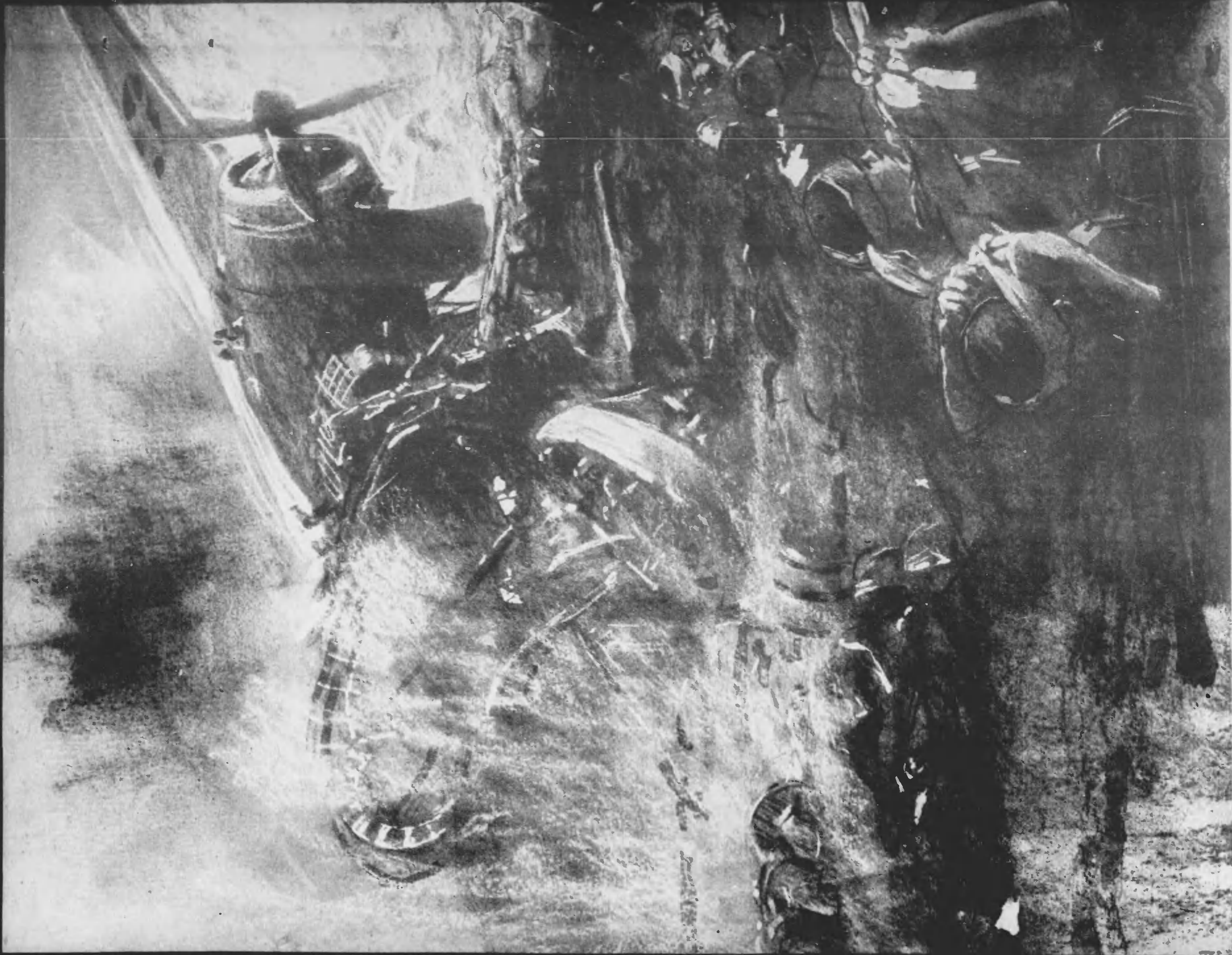




# 絶壮！サイパン白虎隊想像図

兵將に續き少年まで武器をたつ上ち起つとを器武でまな少き年兵將に  
うらうらと涙の胞をいまだ乾かざりていゝ如く森の如く島の米兵が涙の胞をいまだ乾かざりていゝ如く森の如く島の米兵が

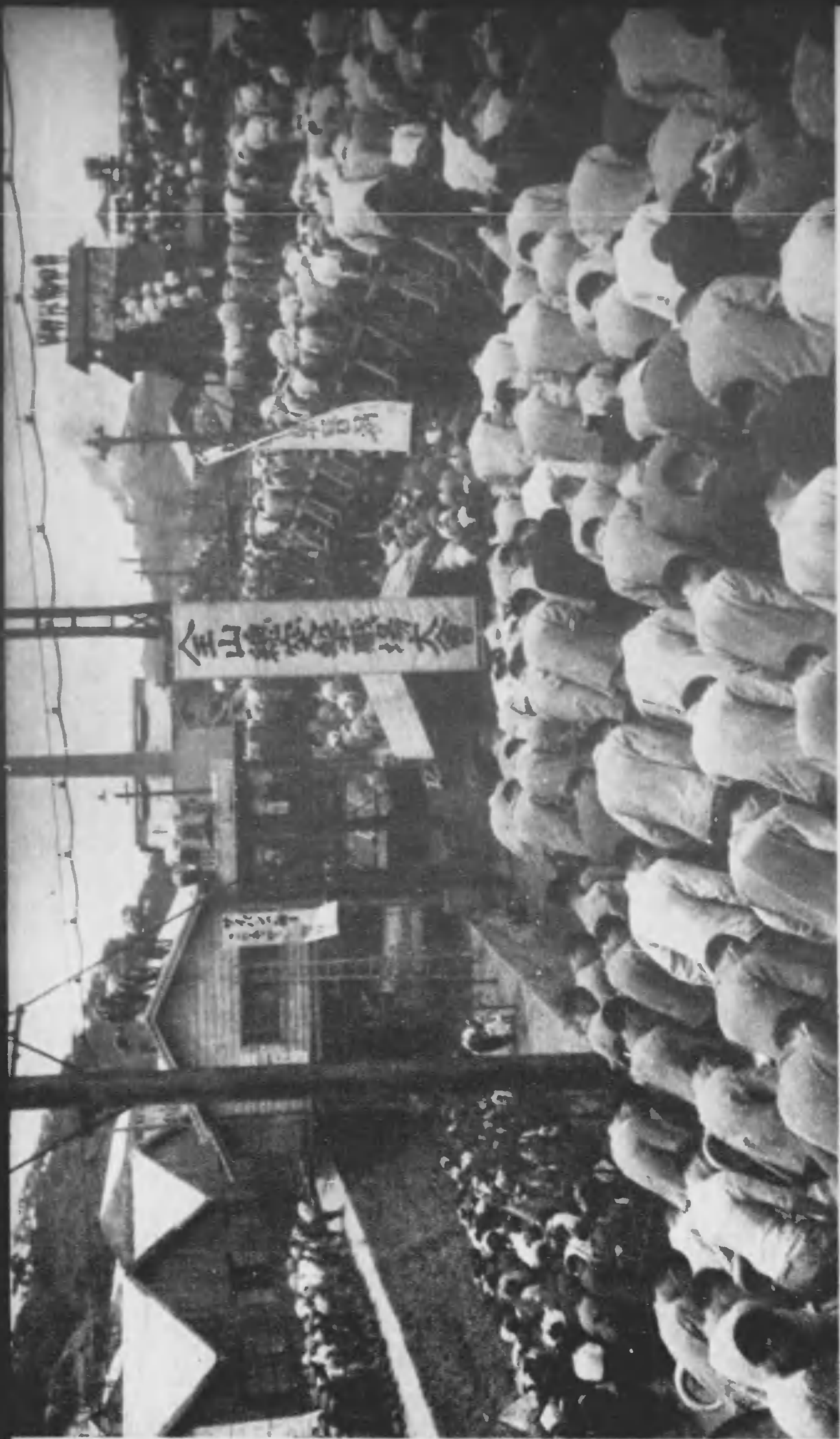




畫 郎 三 本 宮

あてとこついでれれみみの涙の鐵熱にかいはは々々人の下の撃爆砲きなき断間、あ  
つ勝ち打に虚脱す必ず必 ぶ 背に明神に、こ億一 いならなはてめしらはをに駄無てじ断を死な高崇のこはれわれわ るあてい蓋く如





□ この斬り、この怒り。さあ、全精力をあけて石炭を掘るのだ！ 常盤岩

先ん

この仇は討つぞ

哭くもよし、眠るもよし、讃へるもよい。だが、真先にサイパン島の英靈に應へることを考へよう

かよわい婦女やいとけない幼児にまで鐵と爆彈の嵐を浴びせ、その血潮が流れてゐる上を踏んで進んだ敵、この憎い敵を撃ちのめすわれらの道はたゞ一つ、戰場に闘ふことだ

刃には刃を、物には物を以て報いよ。物量を持つ敵に、われらが



□ 地下数百尺—敵機上層の坑内に耳を鋭くする聴察機の働き。全身は寒さと汗にまみれ、決死のまなじり物づく、探偵戦士の取調は続く。この一機が敵機の血を肉を、サイパン回廊を、女を、他は必ず俺たちが討つてやるぞ

血の通つた物量を叩きつけよう

職場を戰場とし、老いも若きも造るのだ。仕れても造るのだ

飛行機を、兵器を！





「僕らは山の青年隊員です。非常な戦況なか  
に、死ぬまで山で闘います」と頼もしい少年  
兵隊員たちの叫び。細らなく、細つ  
て細つて細くくんだ。



少年兵隊士の聲に呼應して、少女兵隊士も  
を紅潮させて熱々なる決意を示す  
「サイパンの降参や同盟の成否に勝て私た  
ちも全員決死隊員に闘死をいとします。」

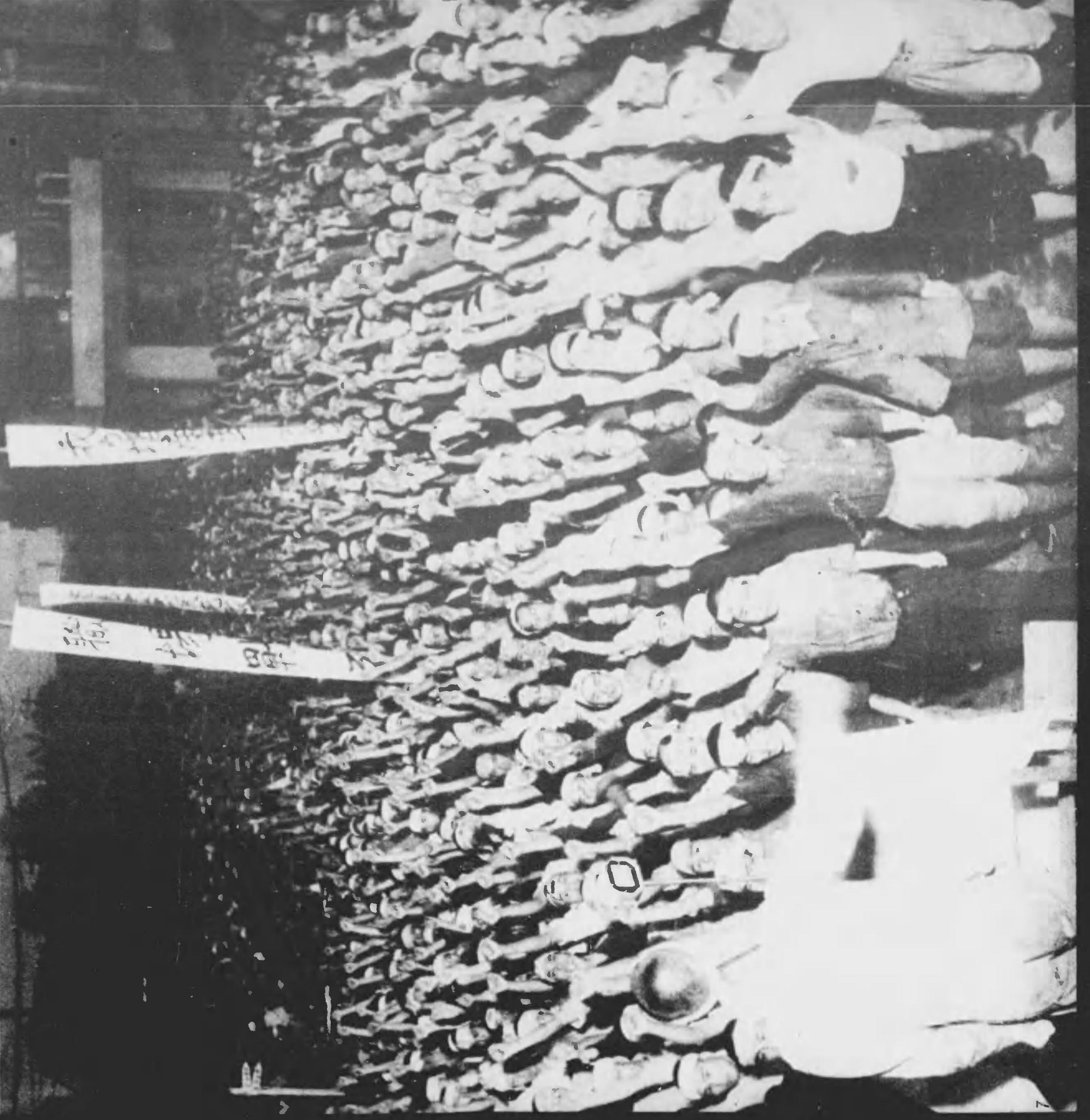


「敵軍の陣営はいまに迫つた。こゝに立つて  
將兵に受容なきの意を表明せんと、我々ら  
産業界士何の顧あつて皇土に生かされよう」

「闘死せよ」  
工員も学生隊もない。あるは同じ憎しみに燃える同胞  
の叫びを。増産隊が決戦の大和魂を 産業界士何に



サイパンを越へば闘一杯だ。勝つては  
もなく、かつと見ひらいたまなざしに  
は一徳の怒りが燃え上つてゐる。な、  
「誓ふ、死んでもやるぞ」





國民合唱

サイパン殉國の歌

作曲 大木恒夫

Musical score for 'Song of the Martyrs of Saipan' with vocal lines and piano accompaniment.



サイパンの殉國の歌

Lyrics for the song, including verses about national defense and sacrifice.

國內戰場訓

Editorial text discussing domestic battlefields, national defense, and the role of the citizenry.